

三井強める収奪

港務所合理化のねらい

仲間の意志守り抜く

長期抵抗の構え強めよう

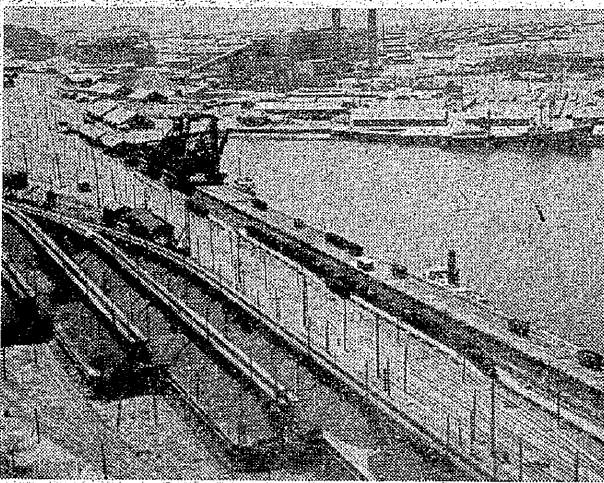
このほど港務所で、事実上の首切りを含む合理化攻撃がでてきたことは本紙前号で、その号外で伝えたが、三池労組はその攻撃をねえ返しながら闘いをすすめている。

合理化提案の内容は？

- まず港務所の会社側は去年の十二月四日、三池労組に対して次の内容の合理化提案を行なった。
- 1、運輸課の作業量の減少に伴い、三交替を二交替にし、作業方法を変更するので、三十七人の余剰人員がでる。
 - 2、新会社「みなと木材」を充足させ(四月一日から)上記の三十七人にその他の課から希望をつのる八人を加え、計四十五人で新企業に就業してもらう。
- その場合の取り扱いは、(1)身分上は派遣とし、勤務は新会社の就業規則にしたがうことになる。

怒りを結集し体制固めへ

以上に見るように、提案は一見ゆるやかなものに見えるが、しかし次回からの団交の際で「企業は生きものであり、よくにみなと木材は中小企業である」とバラの中をさげだしたり、あるいは「今回の措置について、組合は協力できるのか」といふのか」と開



三井が独占する三池港

え方が決まればゆるやかなものでないことがわかった。

三池労組は、まず港務指導部の闘争体制を一步強めながら、職場総動員で第二組合員への働きかけを強化していった。また、さすがに第二組合員の間にも怒りが強まっていて、その幹部らがすっかり会社側と結ばれ、その手先となつて、こんどは合理化をその組合員に押しつけることに血ま

三池労組は一人も移らぬ

そんな情勢の中で、会社は「派遣者については、職員同様特別解雇の取り扱いをする」(まさに首切りだった)「三池労組の派遣は十三人を減らす」としつつも、「賃金差額は手当てなどで補

暖く迎えよう

やってくる「三池に学ぶ会」

今年もいよいよ労働大学主催の「三池に学ぶ全国集会」がやってきた。この集会もすでに今年が七回目。もう三池の労働者にとつても何だか自分たちの行事のようにも思われるほど、なくてはならないものになってきている。

年賀

ありがとうございます
ございました

三池労組は、各方面から暖かい連帯の年賀状をたくさんいただきました。二、三の通にのぞきました。

そのうち七十五枚は個人からの年賀状で、中には志賀義雄さんや小説家の松田健子さんからのハガキもありました。

それぞれ一枚のハガキに、新しい七〇年への決意がこめられていて、心に響いてきます。事実年賀状には、次のような言葉が述べられておりました。

新しい歴史を切り開いていく夜明けだと思ひます。互いに頑張りましょう
一ナセー、一

「私たちは安保廃棄と沖繩返還、そして炭鉱の国有化をめざして闘います。新しい年を、労働者階級の希望にみちた夜明けの年とするため、ともに奮闘しましょう。」
(三井高島炭鉱労組)

「『自衛隊』という首切り合理化をはね返すために、今年も頑張ります。一九七〇年安保廃棄を共に闘いましょう。」
(新日室労組)

「七〇年は俺達労働者が新しい歴史を切り開いていく夜明けだと思ひます。互いに頑張りましょう。」
(秋田の奈良、実さん)

皆さん、本心にありがどうかございました。ともに手をとってがんばってゆきましょう。左の文は全通秋田の奈良さんからの賀状

「三井高島炭鉱労組」
「自衛隊」という首切り合理化をはね返すために、今年も頑張ります。一九七〇年安保廃棄を共に闘いましょう。」
(新日室労組)

「七〇年は俺達労働者が新しい歴史を切り開いていく夜明けだと思ひます。互いに頑張りましょう。」
(秋田の奈良、実さん)

総選挙をふり返って

組合員・主婦の意見

昨年二月の衆議院選挙について三池労組は反戦・反安保闘争の重大な闘いとして、一人七票獲得運動を中心に全力をあげてとどろいたが、大勢が社会党敗北という情勢の中で、これにとりくんだ一人ひとりの組合員の意見を聞いてみた。

社会党だけの問題ではない

本所 松岡大喜さん(32才)

欠いた迫力
た。果の集約も、だから組織決定なかつた。相手は他の候補をき、確実さを期する力がなかつた。三、落選とはわかつたが、それでも訴えるという意義が不明確だった。

追力を欠いた原因は、一、地盤がいつまでもまらず、また地盤も候補者のことばかりが先行して、選挙の意義が徹底してないこと。

二、候補者自身も私たちが押すにたるものかどうか自信がなかつたこと。

三、落選とはわかつたが、それでも訴えるという意義が不明確だった。

愛着はある

主婦会 菊川五百子さん(47才)

いまでもになく闘った
私たちが今回の衆院選はいままでになく闘ったこと、これが決定的にいけなかった。

私たちが納得できるか
社会党の敗北がいろいろいわれていますが、私たちが三池闘争以前から社会党を信じてやってきた。

日常生活がなかつたといわれていますが、それはそうでしょう。社会党の主張がわからないといわれていますが、私たちが納得して運動したりしていない人たちは、わがりにくかつたのでしょ。

「私たちは安保廃棄と沖繩返還、そして炭鉱の国有化をめざして闘います。新しい年を、労働者階級の希望にみちた夜明けの年とするため、ともに奮闘しましょう。」
(三井高島炭鉱労組)

「『自衛隊』という首切り合理化をはね返すために、今年も頑張ります。一九七〇年安保廃棄を共に闘いましょう。」
(新日室労組)

「七〇年は俺達労働者が新しい歴史を切り開いていく夜明けだと思ひます。互いに頑張りましょう。」
(秋田の奈良、実さん)

皆さん、本心にありがどうかございました。ともに手をとってがんばってゆきましょう。左の文は全通秋田の奈良さんからの賀状

「三井高島炭鉱労組」
「自衛隊」という首切り合理化をはね返すために、今年も頑張ります。一九七〇年安保廃棄を共に闘いましょう。」
(新日室労組)

「七〇年は俺達労働者が新しい歴史を切り開いていく夜明けだと思ひます。互いに頑張りましょう。」
(秋田の奈良、実さん)